

## 203. 新しい仕事のやり方??

技術戦略部 資源エネルギー技術課長 桑嶋 知哉

今年の1月中旬に日本で最初の感染者が確認された新型コロナウイルス。そのころは、現在のような日常になるとは微塵も思わず、あまり身近なことと感じずにいました。それが2月になると、クルーズ船の横浜への入港、中国武漢からのチャーター機による帰国などのニュースが大きく取り上げられるようになり、その後は、小中高校への臨時休校要請、緊急事態宣言など皆様もご承知の通り。日本国内の感染ピークは過ぎたとの報道もありますが、世界的にはまだ感染拡大しているニュースも聞こえてきますし、当面は次の感染の波を抑えるような生活を強いられることとなります。

感染リスクを抑える対策は全国的に取られており、東京オリンピックをはじめとしたスポーツや文化的イベントから資格試験の実施まで、とにかく「密」になりそうなものは開催が見送られています。自分の周りでも子供から大人までいろいろなイベントが開催見送りになっていて、我が家の町内会でも行事の多くが開催できず、集めた町内会費をどのように執行するか議論しているようです。当然かもしれませんが、下水道界の一大イベントである「下水道展」も開催が中止になってしまいました。下水道に携わる一人としては、なんとなく物足りない夏を迎えることとなりますが、毎年下水道展の集客力を考えると「密」を回避するためにやむを得ない判断と思われれます。

こんな状況下で、自分の職場でもテレワーク（在宅勤務）を絡めた勤務体制が継続されています。もちろん、事業団でも職務によってテレワーク活用が難しい部署もありますので、感染リスクと職務を考慮しての対応です。ちなみに、事業団におけるテレワーク制度は希望者を対象として従来からありましたが、今回は感染リスク低減のため半ば強制的なテレワークの実施です。設定がわからずTV会議にうまく参加できないこともありましたが、徐々にテレワークを活用した勤務に慣れてきた感じがします。

テレワークによって職場までの往復に費やしていた時間が不要となり自分の時間が増えて、さらに満員電車のストレスも軽減されたと感じますが、一方で自宅での仕事モードへの切り替えが難しい（集中力の問題?）、ちょっとしたこともメールにする煩わしさ（文章力の問題?）、運動不足で体重増加が著しい（自己管理力の問題?）などのデメリットも感じています。在宅勤務が続くと、書類への捺印や紙ベースでのやり取りができないことなどに不自由を感じることもありますが、これほどの職場環境の変化に直面することはそうそう無いはずです。

これまで、「業務の効率化・簡素化」をなかなか本気で考えることはありませんでしたが、今後しばらくこのような生活が続くのであれば、効率的な仕事の進め方を考える貴重な機会ですので、無駄な作業や手間を省いたスマートな?仕事のやり方への転換を考えてみたいと思います。